

# Kidsize テクニカル優勝 TeenSize サッカー準優勝

## ロボカップ'13世界大会で本学チーム

ロボカップ2013世界大会が6月26日から30日までオランダのアイントホーベンで開かれ、本学のCIT Brains チームはサッカー・ヒューマノイドリーグのKidSizeで4位、TeenSizeで準優勝を成し遂げた。また、テクニカルチャレンジではKidSizeが1位、TeenSizeも2位に入り、千葉工業大学のロボット研究の水準の高さを世界に見せつけた。



KidSize(小)とTeenSize(大)のロボットたちを前に遠征メンバーたち



フィールドでの熱戦。青ラベルが本学



競技の合間を縫って機器を調整

# 世界に技術力を示す

**NEWS CIT**

2013  
7.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部  
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼  
2丁目17番1号  
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344  
<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

### ニュースガイド

- 2面 秋田准教授が論文賞/中嶋准教授と近藤さん論文賞/若林助教が優秀発表賞/屋代教授に学会活動貢献賞/JABEE新たに2コース認定
- 3面 fuRo がロボット博士養成授業開講/第18回文化の祭典/谷津干潟の日に村上研が出席
- 4面~6面 本学の平成24年度決算/学生共済会予算、決算/P A総会開く
- 7面 入試説明会/AO入試説明会/産官学連携協議会が発足/附属総研研究活動報告会/キャンパス見学会開く
- 8面 新入寮生オリエンテーション/千種寮春季大運動会/旗名啓教授が逝去

「2050年までに人間のサッカー・ワールド・チャンピオンに勝つロボットチームを作る」という目標を掲げて、世界のロボット研究者や学生が挑むロボカップ。なかでも自分で考えて動く、自律型足歩行ロボットが、相手のゴールめがけてボールを蹴り込むサッカーヒューマノイドリーグは大会最大の見どころだ。

身長30~60センチのロボット3台が1チームとなつて競うKidSizeには、世界から選ばれた24チームが出場した。CIT Brains は1次予選2試合と2次予選3試合を突破して8強入り。準々決勝でドイツのベルリン自由大学チームに圧勝したが、準決勝でイランの工科大学チームに敗れ、中国・浙江大学チームとの3位決定戦へ。この試合を5対1で落として4位が決まった。

チームにCIT Brains がどこまで食い下がるかに注目が集まったが、最後はボン大学に振り切られてCIT Brains の準優勝が決まった。

一方、①ドリブル②スローイン③ハイキック④ダブルパスのうち、3つのプレーの得点を争うテクニカルチャレンジでは、CIT Brains の圧倒的な強さに会場から驚嘆の声が上がっていた。

CIT Brains の出場メンバーは、未来ロボティクス学科の3年生が主体の学生12人で、大半が世界大会は初体験。南方英明准教授は「昨年とメンバーをほとんど入れ替えても、ある水準の結果を残せた。来年はとも期待が持てる」と話している。

KidSize チームのリーダー、前川大輝君は「ア

**技の国、ニッポン。**

**創立70周年広告が 広告大賞優秀賞に**

「技の国、ニッポン。」  
本学が昨年、創立70周年記念日の5月15日付読売朝日、毎日、日経など全国紙含む8紙の朝刊に掲載した1ヶ全面力

ラー広告「写真」が、第29回(2012年度)読売広告大賞の部門賞入賞ぶVの部で優秀賞(賞金10万円)を獲得した。広告では世界最大級二足

千葉工業大学

歩行ロボットcore (コア)をクローズアップした写真にキャッチコピーを大胆に重ね、創立70周年を迎えた本学が、私立工業大最長の歴史を持つ誇りを胸に、知力と技術力で未来をひらく決意をうたっている。

制作はコピーライター・渡辺潤平氏。博報堂勤務後、07年に渡辺潤平社を設立。千葉ロッテマリーンズの年間広告で新人賞、ファッションブランド「INDIV」の新着衣装広告でカンヌ国際広告祭・メディア部門ブロンズを受賞。マイケル・ジャクソン追悼広告(ソニー・ミュージックエンタテインメント)など話題の新聞広告を手がけてきた。

受賞者インタビューによると、渡辺氏は船橋市生まれで、津田沼キャンパスを電車で毎日見ながら通学したといい、本学の制作依頼に、何かの御縁と引き受けたという。

渡辺事務所で古田貴之・未来ロボット技術研究センター所長が、ロボットを熱く語るのを聞き「大学の根っこ部分が見えたと思った。建学理念に「世界文化に技術で貢献する」と力強い言葉を掲げているのが新鮮で、そこを大きな構えで打ち出した」という。

シニア勢の進歩がすごい。3位決定戦に負けた日から来年に向けた準備を始めました」。TeenSize チームのリーダー、伊藤裕介君も「CIT Brains 独自の理論と技術に基づいたロボットを作らなければ」と新たな闘志を燃やしている。

- 【KidSize チーム】  
前川大輝▽大峯達也▽月岡成志▽益子泰一郎▽小俣飛鳥(以上3年)▽宮地真史
- (4年)▽福田大輝(修士1年)▽入江清(fuRo 研究員)▽林原靖男(教授)
- 【TeenSize チーム】  
伊藤裕介▽秋山尚賢▽泉航平▽大谷亮介▽鈴木康史▽山野陽平(以上3年)▽南方英明(准教授)



# 秋田准教授が論文賞

## 膜構造設計の効率化を研究



石井会長(左)から表彰される秋田准教授

する張力場で精度よく近似できることを示した。石田良平・大阪府立大准教授と共同で研究した。この方法により、数値シミュレーションを使ったインフレータブル膜構造設計の効率化が期待されるという。

秋田准教授は「もともと（地上）建築を対象とする膜構造協会から、機械分野の私が賞を頂け、うれしく思います。コンピュータ上で力学現象をシミュレーションし、何かをデザインするのが、私の研究の大きなテーマ。分野横断的なもので、今後分野にとらわれない研究を進展させていけたらと思います」と語っている。

・施工技術の向上を図ることを目的として活動している。毎年、膜構造に関する研究論文を公募し、論文集委員会が採択された論文を「膜構造研究論文集」として刊行。特に優れた論文に論文賞を授与している。

筋肉でどんな適応現象が起こるかを考察した。九州大学大学院芸術工学研究院グループと共同で研究した。

学生の頃に着想し、その後、仮説となるメカニズムを探索して、ようやく実験計画を練った研究の第一報という。

若林助教は「まだまだこれから面白くなる研究です。研究を進展させるべく、筋組織冷却を併用したトレーニング手法を開発し、ウインタースポーツや寒冷地作業者の巧緻動作性の向上や高齢者の筋機能維持・回復などへの応用を考えています」といいます。

# 若林助教 優秀発表賞

## 冷却下での

## 筋組織反応を研究

工学部教育センター・体育教室の若林助教が日本生理人類学会の優秀発表賞を受賞し6月8日、学会の第68回大会

場（金沢市の金沢大学医学部で開催）で表彰された。67回大会（昨年11月17、18日、首都大学東京

荒川キャンパスで開催）で口頭発表した研究「局所冷却による前腕部組織温度の低下と骨格筋酸素摂取量の変化」が、特に優秀と認められた。

日本生理人類学会は、高度な文明に生きる現代人を対象に、人間の特性と矛盾しない科学技術の発展を目指す学会。人の生理特性を、温熱、気圧、光環境などへの「環境適応能」や、個人差とその要因を探る「生理的多型

移動路面環境や、荷物運搬用か搭乗用かの作業目的に応じて、移動プラットフォームの寸法や出力を設計する必要があり、5機目を開発した時点までの知見をもとに設計指針をまとめた。

中嶋准教授と近藤さんの論文は「不整地移動プラットフォーム」RT-Moverシリーズの設計指針（2012年・設計工学47号に掲載）。

中嶋研では、段差などが散在する都市の舗装路面をスムーズに移動する不整地移動ロボット「Charriot」チャリベえ、「RT-Move

宇宙空間に耐える超軽量膜構造物などを研究している機械サイエンス学科の秋田准教授の論文が、一般社団法人日本膜構造協会（会長 石井一夫・横浜国立大学名誉教授）の2012年度・膜構造研究論文賞に決まり、5月24日、東京カーペンパレスでの受賞式で

表彰された。受賞理由は「インフレータブルビームの設計およびしわ発生後の応力場に関する一連の研究」。インフレータブル構造とは、膜に空気を注入して膨張させ形態を維持するもの。展開機構が簡便で、展開後に内圧による圧縮剛性を持つなどの利点があり、地上構造物のほか宇宙分野でも注目を集めている。一方、設計

には複雑な力学的座屈現象を精密解析する困難が付きまとう。受賞研究で秋田准教授は、インフレータブル膜構造の設計に有用な数値解析法の構築を試みた。円筒形態のインフレータブルビーム構造を対象として、薄肉シェルでモデル化した有限要素解析によるしわの応力場評価から、しわ発生後の応力場を微小な圧縮応力を許容



賞状を手に若林助教

移動路面環境や、荷物運搬用か搭乗用かの作業目的に応じて、移動プラットフォームの寸法や出力を設計する必要があり、5機目を開発した時点までの知見をもとに設計指針をまとめた。

中嶋准教授と近藤さんの論文は「不整地移動プラットフォーム」RT-Moverシリーズの設計指針（2012年・設計工学47号に掲載）。

中嶋研では、段差などが散在する都市の舗装路面をスムーズに移動する不整地移動ロボット「Charriot」チャリベえ、「RT-Move

同学会の論文賞は前年

同学会の論文賞は前年

同学会の論文賞は前年

# 中嶋准教授と近藤さん

## 設計工学会から論文賞

## 不整地移動ロボット設計法で

未来ロボティクス学科

の中嶋秀朝准教授と写真

の論文賞に決まり、5月25、26日、国土館大

世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎で開かれた学会春季

研究発表講演会会場で表彰された。

同学会の論文賞は前年

同学会の論文賞は前年

同学会の論文賞は前年

同学会の論文賞は前年

同学会の論文賞は前年



未来ロボティクス学科の中嶋秀朝准教授と写真

の論文賞に決まり、5月25、26日、国土館大

世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎で開かれた学会春季

研究発表講演会会場で表彰された。

同学会の論文賞は前年

同学会の論文賞は前年

同学会の論文賞は前年

同学会の論文賞は前年

同学会の論文賞は前年

同学会の論文賞は前年

# 「論文査読に貢献」

## 屋代教授を表彰

情報処理学会

情報ネットワーク学科

の屋代智之教授は、一般

で、学会誌への掲載候補

論文の査読に貢献したと

論文の査読に貢献したと

論文の査読に貢献したと

論文の査読に貢献したと

論文の査読に貢献したと

論文の査読に貢献したと

論文の査読に貢献したと

論文の査読に貢献したと

論文の査読に貢献したと

論文の査読に貢献したと



論文の査読に貢献したと

論文の査読に貢献したと

論文の査読に貢献したと



# 「ロボット教授」コース

## 小・中学生に英才授業 furoが9月に開講

塾と共同で

未来ロボット技術研究センター（furo）は、今年、開設10周年を迎えている。「ロボット教室」では約4000人が学習している。9月、塾経営のヒューマンエヌディー（本社・東京都新宿区）と共同で小・中学生を対象とした「将来のロボット博士」養成を目指す新たな教育プログラムを開講する。

今年、開設10周年を迎えている「ロボット教室」では約4000人が学習している。9月、塾経営のヒューマンエヌディーが、ロボティクス、プログラミング、ロボット研究やエンジニアを夢見る小・中学生に英才教育を実施する。furoと古田所長が監修。これによって講座は①専門家レベルのロボット技術が学べる②数学・理科が好きになる③高校受験対策にも役に立つように組み立てられている。



記者会見で、教材のオムニホイールロボットを前に記者の質問に答える古田所長

7月8日にヒューマンエヌディーの山本昌人社長と古田所長は、この講座では、本格的なロボットを設計して、組み立て、コンピュータプログラムをつくるなど、私たちが開発したロボットを動かすための知識と技術を子どもたちに与えます。そこで彼らはロボットのパワーアップを楽しみながら、数学や物理を身につけていきます。

# 第18回 文化の祭典

## 市民2700人、チバニーも活躍



音楽サークルの演奏

第18回文化の祭典（実行委員長・南部広樹君、電気電子情報工学科4年）が6月9日（日）、津田沼キャンパスでぎやかに開催された。

今年度のキャッチコピーは「みんなが飾る、文化の華」。祭典を来場者と一緒楽しむことで初めて文化の華が咲くと訴え、文化会の全てを披露しようと、活動や作品、技術を公開した。



市民も学生も祭典を楽しむ



チバニーが祭典盛り上げに役

アニメなど各サークルが、展示や演奏、特設ステージでの発表、目玉企画などでイベントを盛り上げた。訪れた市民約2700人とともに祭典を楽しんだ。

4月に誕生したマスコットキャラクター「チバニー」が応援に駆け付けると、子どもたちや学生が取り巻き一緒に写真撮影していた。

実行委員長の南部君は「文化会サークルの活動を知ってもらえるチャンスで、同時に文化会の活性化を図るよい機会だったと思います。今後も意味のある開催にしていきたい」と語った。



お父さんが操縦に夢中



学内列車が運行!

# 「谷津干潟」保全しよう

## 村上研が研究成果出展

### ラムサール条約登録20周年



展示会場で生命環境科学科生物圏環境研究室（村上研）の研究成果を展示した。村上研はバースには多くの子どもたちも参加した。

東京湾の最奥部に残り、本学キャンパスからも近い「谷津干潟」(約40ヘクタール)がラムサール条約に登録されて20年。今年「習志野市秋津」を中心の開かれ、展示会場で生命環境科学科生物圏環境研究室（村上研）の研究成果を展示した。村上研はバースには多くの子どもたちも参加した。

志野市主催、環境省・千葉県後援は20周年記念として6月1、2日と8、9日の土日曜日に、会場には生物指標による県内各地の水環境評価パネルを並べ、谷津干潟が三枚洲(葛西海浜公園)などに比べて、水質が良く、生物多様性に富み、水鳥の餌が豊富であることを示した。また、環境省の水環境健全性指標を村上研で独自にアレンジした「干潟健全性指標」を用いて、来場した市民に谷津干潟の健全性評価を試してもらった。



# 「千葉工大図鑑」リニューアル

## 高校生・受験生応援サイト

新マスケットの受験生応援大使「チバニー」をメインキャラクターに、千葉工業大学の魅力や学びの特徴を高校生にわかりやすく紹介する。

入試情報はもちろん、オープンキャンパスの詳細、学科・研究室タイプクナビゲーター、キャンパスフォトマップのほか、画面上に隠れているチバニーをクリックすると千葉工大のヒミツを教える「チバニー」を

# 「大学院案内」が完成



千葉工業大学大学院を目指す学生たちのナビゲーターブック「大学院案内」2014年版が完成した。専攻ごとの授業科目や、指導教員の専門分野・研究テーマなどの情報が網羅されている。募集要項と併せて入試広報課で無料配布している。



# 千葉工業大学決算(平成24年度)を承認

学校法人千葉工業大学の平成24年度決算が5月29日の理事会・評議員会で承認された。24年度は教育研究環境の充実、学生への学修支援、経済的支援、さらには研究の高度化への支援などを反映した決算となった。平成24年度事業計画の全文は本学ウェブサイトにて公開している。

## 1 教育研究活動

### (1) 入学試験関係

平成25年度入学試験(平成24年度実施)の学部入試の総志願者数は3万5554名(前年度3万1758名、前年度比112%)となった。

### (2) 学生に対する支援

平成19年度から総合学生支援部署として学生センターを開設した。学生センターでは、学習・研究・学生生活を総合的に支援し、センター内に設置されている津田沼教務課、芝園教務課、津田沼学生課、芝園学生課及び教育支援課が常に連携し学生支援にあたり続けている。

### (3) 学生生活の満足度向上に向けた継続的対応

①学生生活アンケート調査の実施と活用  
学生の動向を把握するとともに、学生の満足度向上に向け大学運営に反映させることを目的として実施しており、学生指導や教育計画立案等の実施に生かしている。

②授業満足度調査の活用  
学生の動向を探るとともに、調査内容を検討し、学生の満足度向上を図ることを目的として実施。FD活動の一環として、調査の結果をまとめ、教員に配布した。

③自己発見レポートの活用  
「自己発見レポート(アンケート)」を平成24年度も継続して行い、在学中に人間としての成長を図る指針や自己の気づきとして利用している。

④ICTを活用した学生サービス  
学内及び自宅から、Webを利用した履修登録及びシラバス

の内容の検案、確認ができる。また平成22年度から、授業支援システムを導入。授業運営の一助となった。

### (5) 単位互換制度

千葉県私立大学・短期大学協会加盟校を中心に県内26大学(放送大学を含む)、11短期大学で単位互換協定を結んでいる。

### (4) 入学前教育の充実

AO入試及び推薦入試による入学予定者に入学後必要となる数学、物理学、化学、英語の基礎、通信添削式の学習課題を与えている。複数の学科においてスクーリングを実施し、学習効果を高めている。

また、平成24年度のAO入学者に対し、入学前にウォーミングアップセミナーのスクーリングを行い、入学後も継続的なフォローアップセミナーを行っている。

### (5) 教養基礎教育カリキュラムの充実

①TOEIC試験の実施  
学内で年6回、TOEIC IPのテストを実施している。平成24年度には前年度に続き1000名近い学生が受講した。

⑥初年次教育の充実  
①初年次教育(学習技術・導入科目)の実施  
高校から大学教育への円滑な移行を進めるために「学習技術」「補完教育(導入数学・導入物理・導入化学)」を初年次教育として実施した。

②学習支援センター  
学習ニーズに対応できる環境を整え、専任職員を多数採用しサポート体制の充実を図った。

⑦教員と職員が一体化した就職支援の推進  
厳しい就職状況が続く中、学

科及び研究室指導教員が主体となり、学生一人ひとりの対話を積み重ねることを柱としている。これに加え、就職委員会と就職課が綿密に連携をとり学生の支援を進めた。

保護者に対しては、学生とのコミュニケーションを再考してもらつことを目的に「親子の絆セミナー」を福島県及び静岡県で開催した。

⑧キャリア形成支援の強化  
学部1・2年次からキャリア形成支援に積極的に取り組んでいる。3・4年次の就職支援は、インターシップ支援をはじめ、就職ガイダンスや支援講座、スキルアップ講座や各種資格試験対策となる講座を開設した。

⑨キャリア教育(初年次)の促進  
本学では初年次のキャリア教育を促進させるべく就職委員会・就職課が中心となり、学習技術の中で講義を展開した。

⑩インターシップの促進  
就職活動が本格的に始まる学部3年次・大学院1年次後期に向けて、学生が自分の将来を見据えた実務体験ができるインターシップへの支援を行っている。

⑪新入生に対する少人数制による総合的な支援  
①オリエンテーションの実施  
全学部、学科の入学を対象に初年次教育(学習技術)として各学科単位でオリエンテーションを実施している。

②クラス担任制  
学生の相談相手となるクラス担任教員を定め、修学上、生活面の問題が生じたときはクラス担任教員に相談できる体制を取

っている。

### (3) メンター制度

クラス担任制に加え、全教員によるメンターが、学生を少人数のグループに分け、入学時から卒業まで、その成長に見合った適切な助言・指導を行なっている。

### (12) 習熟度別教育の充実

入学時に実施するプレスマンテストの結果を参考に、教養4科目、基礎8科目、その他の専門科目において習熟度別クラスを開設し、学生個々のレベルに合わせた授業運営を行っている。

⑬情報教育・ネットワーク環境の充実  
本学とアドビシステムズ株式会社は Adobe Creative Suite Master Collection (デザイン作成ソフト統合パッケージ)の利用について、理工系大学では国内初の包括ライセンス契約を結んだ。

⑭JABEE(日本技術者教育認定機構)認定申請に向けた取り組み  
・生命環境科学科(環境創成工学コース)、経営情報科学科(経営システムコース)、プロジェクマネジメント学科(経営システムコース)が4月に認定を受けた。

・機械サイエンス学科、建築都市環境学科が認定申請を行い、11月に実地審査を受け、また、電気電子情報工学科が中間審査を受けた。

・全教職員を対象に「第4回JABEE受審に向けた進捗状況報告会」を開催し、各コースの情報や課題を共有し、その報告内容を学内ウェブサイトで開催した。

・JABEE等の概要が掲載された「技術士(国家資格)への挑戦!カイドブック」を新入生やJABEEコースを希望

する学生に配付した。

### (15) 教育業績表彰制度等を通じたFD活動の継続

### ①教育シンポジウム

「第4回学部教育シンポジウム」を開催。「学部教育シンポジウム予稿集」を作成した。また、学部生・大学院生に対して授業満足度調査を行い、授業改善に役立てた。

## 2 研究推進活動

(1) 海外協定大学との連携強化  
①学生の交流  
交換留学(派遣)、交換留学(受け入れ)、日タイ共同によるプロジェクトマネジメントに関する体験型教育(派遣)等を実施した。

②教職員の交流  
中国・哈爾濱工業大学及び吉林大學との間で、学術交流団の派遣及び客員研究員の受け入れ等を実施した。

(2) デジタル情報の多様化に対応した学習支援機能の充実  
電子ブックでタイトル数の充実を図った。教育・研究者データベースは各教員情報の大規模更新を図った。

(3) 競争的研究資金等の獲得  
①科学研究費助成事業  
平成24年度科学研究費助成事業の申請件数は106件で、このうち継続分を含め76件が採択された。

(4) 奨学金付金及び受託研究費  
平成24年度中に受入れた奨学金付金及び受託研究費は1177件で、前年度比10件の増、金額も前年度比約1億3千万円の増となった。

(5) 公的研究費等の管理  
調査委員会(第1次)を設置し、関係の研究者・取引業者について平成18年度から23年度までの公的研究費等について調査を実施した。さらに第二次の調査委員会を設置、大学予算を含む私立大学等経常費補助金にか

かる経費の使用状況も含めて調査を行うこととし、不正使用の全容解明に努めた。

### (6) 研究助成関係

①特許  
平成24年度は、9件を出願した。

②附属総合研究所  
平成23年度から「教育研究助成金」を新設。平成24年度には、平成25年度科学研究費助成事業申請者に対し「採択前支援」を実施。39件の助成金を交付した。

・研究活動報告会を6月13日に開催した。  
・材料解析室の今年度の各種機器利用時間は延べ4666時間。利用者数は709名。大学院生を対象とした解析機器基礎講習会を延べ28日間開催し、135名の学生が参加した。

・工作センターでの今年度の受託総件数は378件で、加工数は1万1005個。

(7) 未来ロボット技術研究センター  
「生活支援ロボット実用化プロジェクト」安全技術を導入した搭乗型生活支援ロボットの開発、安全要素部品群と安全設計に基づく搭乗型移動ロボットの開発、「災害対応無人化システムの研究開発プロジェクト」(1)作業移動機構の開発、ロボット組込・制御系・操縦システム、遠隔・自動充電システム、遠隔除染システム、踏破性検証・運用訓練モックフィールド」を計画。

クインス2号機が福島原発原子炉建屋に投入され、すべてのミッションで放射線測定(線量マップの作成)と建屋内の詳細な写真撮影に成功した。

(8) 惑星探査研究センター  
小惑星探査機「はやぶさ2」、次期月探査機「セレーネ2」、欧州の木星探査計画「ジュピター」に参画。特に「はやぶさ2」ではリーダー高度計サイエンスチーム主任、衝突装置副主任を

始めとして、プロジェクト全体を牽引する貢献を果たしている。他にも独自の宇宙開発プロジェクトとして、流星観測超小型衛星、宇宙ステーションからの流星観測プロジェクト、高速衝突銃の開発を進めている。また高速衝突銃実験室が平成25年3月に完成し、既に8キロ/秒という二段式軽ガス銃では世界でも最高レベルの衝突速度を達成した。

## 3 学生支援関係

(1) 学生支援の充実強化(学生相談、課外活動、奨学金等)  
①学生相談  
悩みを訴える学生に対応するため津田沼・芝園両校舎にカウンセリングルームを開設した。

②課外活動支援の充実  
学生が学生生活の中で、社会で求められる社会性や人間力を培っていくよう、課外活動を通じて支援を行っている。自動車部が創部70周年を記念して1931年式フォードA型4ドアフェルトンを再生、学内でデモ走行を行い、その後新2号棟(現1号館)1階に展示した。

③奨学金支援活動  
千葉工業大学同窓会からの寄附を原資とした給付型の奨学金を創設し、人物・学業ともに優れた学生の中で経済的に困窮度が高い学部4年生を対象として募集し、13名の学生に学生納付金半期相当額を上限として給付を行った。

また、大学院授業料を貸与する本学独自の奨学金制度では、合計92名の大学院生に貸与を行った。技術・情報振興会奨学金制度では、母子・父子家庭の学部4年生からの申請・審査を行い、4名に対して1人当たり20万円を給付した。

さらに、勉学意欲があるにもかかわらず、経済的困窮により修学の継続が著しく困難な学部3・4年生と大学院2年生以上を対象として、給付型の奨学金を募集し、31名の学生に学生納

付金の年額または半期相当額の給付を行った。また、勉学意欲があるにもかかわらず、主たる家計支持者の経済的困窮により、修学の継続が著しく困難な学生を対象として、給付型の奨学金を募集し、17名の学生に学生納付金の年額または半期相当額の給付を行った。

## (2) 学生共済会の充実

①見舞金給付  
学生の疾病・傷病・死亡・災害被災などに対して見舞金や弔慰金を給付している。平成24年度は57件の見舞金及び3件の弔慰金として、合計373万3350円を給付した。

②学生納付金貸与制度  
23名の学生に対して合計1392万円を貸与し、修学を継続させることができた。

③メンタルヘルスサポートシステム及びドクターオポドクターネットワークシステム支援  
「100」から「元気サポート」(メンタル及び健康相談)は128件の利用があり、メンタルの電話によるカウンセリングは63件の利用があった。実際に面談によるカウンセリングの利用は6件あった。

④暮らしの法律相談サービス  
法律関係で相談4件に対応した。今後利用者拡大のため、周知強化に努める。

⑤留学生の受け入れ体制の充実  
留学生への支援の充実  
留学生に対して授業料の減免や学生生活、在留手続、就職等に関するガイダンスを実施した。

①津田沼キャンパス  
改修工事を終えた4号館への部室移転作業。自転車通学者のための自転車置場と緑地帯を整備した。新たな車両門(東門)の整備やバイク通学者のためのバイク置場とスクールバスの発着場を整備した。

駐車スペースの整備と併せキャンパス内の歩道道分離を図った。5号館や7号館の外壁改修



消費収支計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

(単位：円)

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 消費収入の部 (Consumer Income) and 消費支出の部 (Consumer Expenses).

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 消費支出の部 (Consumer Expenses) and 消費収支差額の部 (Consumer Balance).

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 当年度消費支出超過額, 前年度繰越消費支出超過額, 翌年度繰越消費支出超過額.

貸借対照表

平成25年3月31日

(単位：円)

Table with 4 columns: 科目, 本年度末, 前年度末, 増減. Rows include 資産の部 (Assets) and 負債の部 (Liabilities).

Table with 4 columns: 科目, 本年度末, 前年度末, 増減. Rows include 負債の部 (Liabilities).

Table with 4 columns: 科目, 本年度末, 前年度末, 増減. Rows include 基本金の部 (Reserve Funds).

Table with 4 columns: 科目, 本年度末, 前年度末, 増減. Rows include 消費収支差額の部 (Consumer Balance).

工事、7号館への太陽光発電システムの導入(最大15kW)と空調の改修工事を実施。(2)新習志野キャンパス文部科学省からエコキャンパスの補助金交付を受け、6号館(図書館)へ太陽光発電システム(最大42kW)を導入、併せて空調改修工事を実施した。また、東側に新学生寮(約400名収容)の建設工事に着手した。女子寮の新設も併せ、平成25年度末の完成を目指している。

5 地域・社会への貢献

(1)大学の特色を生かした公開講座の推進 (2)技術情報振興会関係では、オープンフォーラムやものづくり製品技術展示会等の学外イベントで発表を行った。(3)東京スカイツリータウンキャンパスの開設 2012年5月22日に開業した東京スカイツリーに隣接する東京ソラマチのオープンに合わせ、東京スカイツリータウンキャンパスを開設した。現在は「レスキューロボット」「火星探査船操縦シミュレーター」「超巨大ロボットックススクリーン」「魔法のカード ON THE FLY」

6 法人管理・運営関係

(1)千葉工業大学創立70周年記念事業 平成24年5月15日に創立70周年を迎え、記念式典、展示等を実施したほか、記念史「千葉工業大学70年のあゆみ」を作成した。(2)公的研究費等の監査の実施 平成19年度の設置当初から「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づいた対応を最優先課題としてきた。(3)SD活動の充実 平成24年度の職員研修は、昨年度の研究テーマ「退学者問題」の内容を引き継ぎ、「学生満足度向上のための方策」と題し実施した。

7 財務の概要

(1) 帰属収入169億2000万円(予算比4億9300万円増 前年度比14億8900万円減) ①人件費は、予算比1900万円減少し63億9300万円となっている。人件費比率は37.8%で、理工系他複数学部部の私立大学の平均値(53.5%)に比し、引き続き良好な水準となっている。 ②教育研究経費は、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、修繕費、委託費等で予算に対して少ない執行額となっている。これまでと同様に経費圧縮に努めたことにより予算比3億7000万円の減少となった。 ③管理経費は、予算比3700万円の減少となった。 ④資産処分差額と図書処分差額 建物除却対象は、津田沼校舎5号館協の仮設キュービクル・受水槽。これは1号館が竣工するまでの間、旧本館、1号館、5号館、部室棟などへ電気と上水道の供給するために設置していた設備で、1号館地下に設備が整いその役割を終えたことから撤去した。(除却差額1億4000万円)。また、図書除却額は8100万円。

資金収支計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

(単位：円)

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenses).

Table with 4 columns: 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 支出の部 (Expenses).

主な内訳 有価証券評価差額27億9900万円減 (3)基本金組入額24億円 主な基本金の組入額は次のとおり。 1)第1号基本金 組入額25億6700万円 ①建物(津田沼4号館)、各所改修工事、過年度の繰延他(6面へ続く)

めた結果となっている。管理経費比率は6.9%で、理工系他複数学部部の私立大学の平均値(7.1%)と同程度となっている。今後とも効率化を図っていく。

④資産処分差額 建物除却差額と図書処分差額 等。建物の除却対象は、津田沼校舎5号館協の仮設キュービクル・受水槽。これは1号館が竣工するまでの間、旧本館、1号館、5号館、部室棟などへ電気と上水道の供給するために設置していた設備で、1号館地下に設備が整いその役割を終えたことから撤去した。(除却差額1億4000万円)。また、図書除却額は8100万円。

興・共済事業団) [注2]比率の計算式 人件費比率・人件費÷帰属収入 教育研究経費比率・教育研究経費÷帰属収入 管理経費比率・管理経費比率÷帰属収入 帰属収入 帰属収入÷帰属収入 (建物増加分) 消耗品費1億2300万円増 (教務関係) 受託研究費1億500万円増 管理経費6800万円増

主な内訳 修繕費4億3000万円増(施設関係津田沼4号館他) 減価償却額1億2900万円増 (建物の増加分) 消耗品費1億2300万円増 (教務関係) 受託研究費1億500万円増 管理経費6800万円増



# 大震災特別支援を継続

## PPA総会 新会長に三宅氏

平成25年度PPA総会が6月29日、津田沼校舎隣の習志野文化ホールで、委任状を含め4090人の父母が出席して開かれ、写真・24年度の事業・決算報告と25年度事業計画・予算案を承認。新会長に三宅浩史氏を選任した。



別支援が継続実施されたことが報告された。この特別支援は23年度からスタートしたが、自治体による「防災証明書」発行の遅れなどで同年度中に申請できなかった。在学から多数の問い合わせが寄せられた。この結果、特別支援を受けた学生は新生43人、在学71人の計114人となった。この特別支援は25年度新生を対象に継続することが承認された。

総会は冒頭、田岡茂会長が「PPA活動の最大行事として全国の主要40数都市で開催している地区懇談会は、大学が把握している(われわれの)子供たちの実情を皆さまにお知らせする場です。今後ともご協力をお願いします」とあいさつ。

次いで小宮一仁学長が「学長に就任して1周年。1年間、伝統ある本学のグローバル化に向けた舵を迅速に切るために、さまざまな施策に取り組んできたが、今年は本学の教育・研究力のシャンプアップに向けてさらに大きな改革を推進していく」と決意を表明した。

瀬戸熊修理事長は「大学は今、質的転換の時代を迎えており、産業構造の転換などに応えて、主体的に学び、考え、行動する人材育成が求められている。その中で千葉工大は創立100年に向かって走っていく」と、長期展望に基づいた大学改革への理解と協力を訴えた。

なお、この総会で承認された新役員は三宅会長のほか、副会長に庄司栄、橋本和明、幹事に田部井洋子、村上利幸の各氏。

（5面から続く）  
組入額8億7900万円 除却額8億2800万円  
②建設仮勘定(新学生寮) 組入額20億7400万円

③構築物、過年度の繰延組入額5億1900万円 除却額8800万円  
④教育研究用機器備品 組入額7億6400万円 除却額7億600万円  
⑤図書・その他機器備品他 組入額6800万円 除却額1億1500万円  
計 組入額43億400万円 除却額17億3700万円

②第2号基本金  
・教育環境整備資金 組入額15億円  
・校舎改修準備資金 繰入額10億円 使用額 27億円  
④ 帰属収支差額と消費収支差額  
この結果、帰属収支差額は15億1800万円のプラス(19.0%)、当年度消費収支差額は8億4100万円の支出超過となった。

⑤ 翌年度繰越消費支出超過額  
費支出超過額と、前年度繰越消費支出超過額17億400万円に比べて、25億4600万円の支出超過となった。

⑥ 今後の課題  
今後も引き続き財務基盤の安定をはかるため、次のような課題に取り組んでいく。

① 学生生徒等納付金の安定的確保 入学者数の確保はもろろん、教育力の一層の充実や学生への修学支援強化によって退学者数の圧縮に努める。  
② 外部資金の獲得 国庫補助金(特別補助)、受託事業収入、科学研究費補助金などの外部資金の収入増加を図っていく。  
③ 資産運用の一層の効率化とリスク管理の徹底  
④ その他の収入源確保策の検討

## 学生共済会予算、決算を承認

### 予算

5月30日に開かれた理事会で、平成25年度学生共済会予算案は異議なく承認された。予算の概要は次のとおり。

### 収入の部

● 援助金  
同窓会からの援助金として、50万円を計上した。  
● 受取利息  
金利低迷の中、積立金・基金

### 支出の部

● 積立金取崩  
学生サポート充実に向け、新規事業導入の費用として200万円を計上した。  
● 前年度繰越金  
554万7789円を計上した。

### 決算

● 給付金  
給付金支出金額は、昨年度370万円程度だったが、不測の事態に備え600万円を計上した。  
● 学費貸与金  
近年続いている不況および震災以降の景気低迷、自然災害等の影響を考慮し3000万円を計上した。  
● 委託費  
今年度も昨年同様、メンタルヘルサポートシステム及びドクターオファドクターズネットワーク、暮らしの法律相談の継続に係る費用として690万円を計上した。  
● 印刷費  
新規事業のリーフレットや更なる共済会事業の周知に向け、150万円を計上した。

## 平成24年度決算報告書

### 貸借対照表 平成25年3月31日 千葉工業大学学生共済会

資産の部		正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
(流動資産)		共済基金	205,000,000
普通預金	25,547,789	積立金	138,000,000
定期預金	487,000,000	貸付充当金	194,402,487
計	512,547,789	計	537,402,487
(固定資産)		学費貸与準備金	164,000,000
貸付金	194,402,487	次年度繰越金	5,547,789
計	194,402,487	計	169,547,789
合計	706,950,276	合計	706,950,276

## 平成24年度収支決算書

自平成24年4月1日：至平成25年3月31日

I 収入の部			II 支出の部		
科目	予算額(①)	決算額(②)	科目	予算額(①)	決算額(②)
1. 会費収入	25,000,000	24,145,000	1. 支払保険料	11,000,000	8,473,220
2. 入会金収入	4,500,000	4,646,000	2. 給付金	6,000,000	3,733,500
3. 同窓会援助金	500,000	500,000	3. 貸与金	52,000,000	13,923,750
4. 受取利息	250,000	169,434	4. 委託費	6,900,000	6,852,300
5. 貸付金回収収入	26,000,000	23,149,483	5. 通信費	100,000	31,370
6. 手数料収入	0	1,590,114	6. 印刷費	900,000	1,551,900
7. 学費貸与準備金取崩	15,000,000	10,000,000	7. 会議費	200,000	111,985
8. 前年度繰越金	6,357,829	6,357,829	8. 事務費	400,000	332,046
			9. 学費貸与金組入支出	0	0
			10. 共済基金組入支出	0	0
			11. 積立金組入支出	0	30,000,000
			12. 予備費	107,829	0
			当期支出計(B)	77,607,829	65,010,071
当期収入計(A)	77,607,829	70,557,860	当期剰余金(A)-(B)	0	5,547,789

## 平成25年度千葉工業大学学生共済会収支予算

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1. 会費収入	24,000,000	1. 支払保険料	35,000,000
2. 入会金収入	4,500,000	2. 給付金	6,000,000
3. 同窓会援助金	500,000	3. 貸与金	30,000,000
4. 受取利息	150,000	4. 委託費	6,900,000
5. 貸付金回収収入	25,000,000	5. 通信費	100,000
6. 手数料収入	1,800,000	6. 印刷費	1,500,000
7. 学費貸与準備金取崩	0	7. 会議費	200,000
8. 積立金取崩	20,000,000	8. 事務費	400,000
9. 前年度繰越金	5,547,789	9. 学費貸与準備金組入支出	0
		10. 共済基金組入支出	0
		11. 積立金組入支出	0
		12. 予備費	1,397,789
合計	81,497,789	合計	81,497,789

支出の部では、大学の給付奨学金も認知度が高まり、共済会貸与制度と並行して申請する学生が増加している。また、東日本大震災の特別支援制度もあり、貸与者は減少している。

千葉工業大学学生共済会も25年度を迎え、学生へのサポート充実を目的として新規事業を導入する予定です。平成24年度も順調に運営されましたことを報告致します。



# 26年度 入試説明会開く

## 高校教諭ら施設を見学



●真剣にメモを取る教諭たち  
●本学施設を見学

本学の平成26年度入試説明会が6月11日、津田沼校舎2号館3階大教室で行われ、関東を中心に高校教諭ら136人が参加した。

目下部総入試広報部長

があいさつした後、入試委員会委員長の坂本幸弘教授（機械サイエンス学科）が26年度入試について説明。AO入試、推薦入試、前年度入試との相違点や一般入試、センタ

況などにも触れた。

この後、小宮一仁学長が本学の歴史と現状、進路中の教育・研究の改革について講演した。

小宮学長は学長就任前の4年間、入試委員長を

務めていたこともあり、出席教諭たちが知りたい情報に絞った話を展開。教育のグローバル化に関する文部科学省の施策や、経済界の動向を交えて、「世界文化に技術で貢献する」を建学の精神とする本学が向かうべき方向と諸施策を、具体的に説明した。

講演は、変わり続ける千葉工業大学を強くアピールして終了。多くの参加者が学長を囲んで親交を深める一幕もあった。

さらに会場を2階に移して、入試に関する個別相談が行われ、入学試験委員会委員と入試広報課、就職課の職員が対応した。

また、昨年度に続いてキャンパス見学会を行い、希望した教諭ら23人が参加。コンピュータ演

習室や惑星探査研究センター高速衝突実験室、工作センターなどを見て回った。参加者からは「充実した設備や最先端の研究を身近に感じられる環境」に身を付けた技術で世界を豊かにしてほしいなどの声が寄せられた。

AO入試出願希望者のための説明会が6月23日正午～午後4時、津田沼キャンパス6号館で開かれた。今年度1回目オープンキャンパスが7月にあり、その前に開催された。

希望者736人が訪れた。

全体説明会は6号館5階教室で、入試広報課職員がエントリーの手法や出願の注意点などを説明。また、1～3階の各教室で学科説明会と学科別AO入試説明会を開き、11学科のAO入試担当者らが学科案内や、学科で異なるAO創造入試の課題演習教育を説明した。

個別相談ブースの教室も設けて、入試に関する質問や学生生活、教育関係の質問を受け



も推進するとしている。さらに本学のホームページでの会員企業の紹介（リンク）や、会員企業に在籍している本学の卒業生を「ニュースCIT」で取り上げるなど、会員企業に関する情報の学内PRにも力を入れる。

「産官学連携協議会」の副会長である坂本幸弘委員長（機械サイエンス学科教授）は「当面、会員企業100社を目指したい。また、協議会の活動を学内の先生方にもより広く理解していただきたい」と話している。

なお、第1回総会で新協議会の会長には瀬戸熊修理理事長、副会長には小宮一仁学長、坂本幸弘教授が選ばれた。

学科教授は「当面、会員企業100社を目指したい。また、協議会の活動を学内の先生方にもより広く理解していただきたい」と話している。

6月15日

「ものづくり本格ワークショップ」では、デザイン科学専攻修士1年の酒井芳樹さん、河西真樹さんが、河内真樹さんが

6月22日 「女性企業家・女性研究者への道」では、女生徒を対象に、本学卒業生の宇井吉美さんと未来ロボティクス学科4年の遠藤沙莉さんが、自身の学生生活や研究テーマを説明しながら、工業大学の中で女子学生が活躍している様子を話した。女生徒や同席した保護者は安心した様子。ブレイクタイムでは女子学生スタッフも合流し、お茶やお菓子を囲んでグループトークで盛り上がった。

# 「技術・情報振興会」衣替え

## 「産官学連携協議会」が発足

### 会員企業と、より密接に交流を



産官学連携協議会の初代会

本学と産業界や公共団体との間の教育研究情報、技術情報や就職情報などの交換・交流活動を20年にわたって進めてきた「千葉工業大学技術・情報振興会」が6月13日、「千葉工業大学産官学連携協議会」に衣替えし再スタートを切った。今後、新たな事業計画を推進する中で会員企業とのより一層密接な関係を構築し、新入会員獲得にも力を入れていく方針だ。

平成4年に発足した

「技術・情報振興会」は、本学の研究成果と会員企業の技術ニーズとをマッチングさせる技術相談会や、双方の研究成果を持ち寄ってより高度な技術開発に挑む共同研究の推進、会員企業からの受託研究、さらに学生の就職に関する情報交換などを行ってきた。

このような実績をベースに、新たな「産官学連携協議会」は最近の社会・技術環境の激しい変化により柔軟に対応した運営を目指す。

6月13日の第1回総会で採択された平成25年度の事業計画では、企業・大学双方から研究成果を発表する「双方向技術交

流会」の開催や、企業からの受託研究・共同研究のさらなる活性化、会員企業に研究者を派遣して行う先端技術の講習、講演会の開催などが盛り込まれている。

また、学生の会員企業見学やインターンシップの実施、会員企業から派遣された特別講師によるキャリア科目の授業なども推進するとしている。

さらに本学のホームページでの会員企業の紹介（リンク）や、会員企業に在籍している本学の卒業生を「ニュースCIT」で取り上げるなど、会員企業に関する情報の学内PRにも力を入れる。

「産官学連携協議会」の副会長である坂本幸弘委員長（機械サイエンス

学科教授）は「当面、会員企業100社を目指したい。また、協議会の活動を学内の先生方にもより広く理解していただきたい」と話している。

なお、第1回総会で新協議会の会長には瀬戸熊修理理事長、副会長には小宮一仁学長、坂本幸弘教授が選ばれた。

研究ばかりで、これだけの数の研究報告がまとまって行われるケースは全国の大学でも珍しい。文字通り「千葉工大のアクセシビリティ」を象徴するイベントだ。

河合剛太・附属総合研



研究ばかりで、これだけの数の研究報告がまとまって行われるケースは全国の大学でも珍しい。文字通り「千葉工大のアクセシビリティ」を象徴するイベントだ。

河合剛太・附属総合研

研究会の開催や、企業からの受託研究・共同研究のさらなる活性化、会員企業に研究者を派遣して行う先端技術の講習、講演会の開催などが盛り込まれている。

また、学生の会員企業見学やインターンシップの実施、会員企業から派遣された特別講師によるキャリア科目の授業なども推進するとしている。

さらに本学のホームページでの会員企業の紹介（リンク）や、会員企業に在籍している本学の卒業生を「ニュースCIT」で取り上げるなど、会員企業に関する情報の学内PRにも力を入れる。

「産官学連携協議会」の副会長である坂本幸弘委員長（機械サイエンス

# 「研究力」一堂に

## 附属総研 活動報告会開く

本学の平成24年度の研究成果を一堂に集めて公開する「附属総合研究所研究活動報告会」が6月13日（木）、2号館低層棟3階の大教室で開かれた。

ポスターセッション方

式で行われた今回の報告会に参加したのは、昨年度に学内の科学研究助成金や教育研究助成金、文部科学省の科学研究費補助金などの公的資金を受けて行われた76件の研究成果。それぞれの分野で最先端をいく力ももった

研究ばかりで、これだけの数の研究報告がまとまって行われるケースは全国の大学でも珍しい。文字通り「千葉工大のアクセシビリティ」を象徴するイベントだ。

河合剛太・附属総合研

会場には学内外の研究関係者が大勢集まり、写真、お互いの研究情報や最近の研究動向について意見交換するなど、熱気にあふれていた。

各回とも学科や設備を案内し、昼は学食ランチを無料サービス。参加者たちは学生スタッフ、教職員と食事しながら会話をするなど、小規模制ツアーならではの情報交換となった。



# 新入寮生バスハイク 集団生活のマナー学ぶ



学寮委員会（委員長 山正明・プロジェクトマネージャー）が4月14日(日)に行われた。新入寮生のほか寮友会執行部学寮委員、学生センター職員ら1502人が参加し、にぎやかなバスハイクとなった。

オリエンテーションは、集団生活する上での決まりごとを身に付ける目的で毎年開かれる。

①出発を前に、少し緊張きみ  
②ランチタイムで交流を深める

# 熱戦に沸く

## 千種寮春季大運動会



力比べでは負けないぞ！

千種寮の春季大運動会（体育委員長・北野貴久）が26日(日)、2600人が参加して開かれた。当日はさわやかに晴れ、運動会日和。寮生

私たちは一日、体を思いっきり動かして楽しんだ。種目は障害物競走や借り物競走、馬跳びリレー、50メートル走、棟対抗リレーなどで、会場は熱戦と応援の声に沸いた。

運動会の目標は①各棟の団結力を高める②先輩の目標を達成した。今年は大規模な大会を開催し、競技が終了するたびに勝利の行方に歓声が上がった。エキシビジョンマッチの綱引きでは現執行委員チームと旧執行委員チームが対戦。旧執行委員・学寮委員会チームが圧勝した。



白熱のリレー戦



盛り上がる騎馬戦

総合順位は1位 4棟、2位 1棟、3位 3棟、4位 2棟だった。

## クラブの活動状況

文化会	期間	大会・発表会名
総合工学研究会	6/17	第5回ニソコン（東京理科大学）
鉄道倶楽部	6/22	真砂幼稚園バザー
電気研究部	6/22	関東大学間ミーティング（東京工業大学大岡山キャンパス）
動画制作部	6/30	第65回アニメーション研究会連合同上上映会（大田区民センター）
将棋倶楽部	6/9	東日本選抜トーナメント（秀明大学）
生物部	6/9	ラムサール条約登録20周年記念シンポジウム（谷津干潟自然観察センター）

  

体育会	期間	大会・発表会名
自動車部	5/4	千葉県ダートトライアル選手権第三戦フレッシュマンシリーズ
弓道部	5/11	全関東学生ジムカーナ
二輪部	6/9	第43回全関東学生弓道選手権大会 個人予選
空手道部	5/26	Campus off-Road Meeting 第2戦
剣道部	4/28	第41回千葉県空手道選手権大会
ゴルフ部	5/5	第41回関東学生空手道選手権大会
サッカー部	6/9	春季関東学生定期リーグ戦
卓球部	5/18	関東女子学生剣道選手権大会
	5/8~9	関東学生連盟 E・Fブロック対抗戦
	5/26	練習試合（対戦相手：エルダーOB）
	6/1、8	千葉県大学サッカー連盟 交流戦
	6/1~2	関東学生春季リーグ戦

上記クラブのほか、多くのクラブが課外活動に動んでいます。今後、定期的にいろいろなクラブの活動状況をお知らせしますので、学生たちのがんばりにご期待ください。



バス内では担当委員が寮生のほかに寮友会執行部員らが寮生活の基本マナーを説明。寮友会執行部員らが寮生活

氏（元工学部金属工学科教授）が6月14日、肺炎のため逝去された。88



## 旗杏州名誉教授 逝去

旗氏は、昭和41年6月に本学金属工学科に助教として就任。同45年に教授に昇格。平成7年3月に定年退職を迎え、翌月に名誉教授の称号を授与された。

についてアドバイス、先輩たちは体験談を語るなど、にぎやかな時間を過ごした。

見学の鴨川シーワールドでも、新入寮生たちはアトラクションを見ながら先輩たちと交流を深めた。

## 同窓会



昨年、その前も、ずっと熱夏の異常気象が続きました。こう暑いといふエアコンに頼ってしまいがちです。しかし、今年も7月、8月、9月と節電に努めなければなりません。

そこで、節電にはエアコンよりも扇風機が良く、扇風機よりも団扇が良いと思います。今年も研究室のコンピュータの前には扇風機を置いて使っています。面白いもので、コンピュータでの文

## 四季雑感



二本足で立つウサギ、千葉工大の受験生応援大使がネット上で話題になっています。多くの日本人は、その表情から「チバ工」という文字を読み取るらしいのですが、日本語の文字を使うなんて、グローバル化に反しているという指摘を友人から受けました。

## 編集だより



毎年の恒例行事であるオープンキャンパスが先日無事終了しました。今年度は6月にAO入試説明会を実施したのみで、7月が事実上初めてのオープンキャンパス。想像以上の来場者が来たらどうしよう……熱中症でスタッフや来場者は大

入試広報課 大橋 慶子